

脂質異常症がある方は「禁煙を！」



① 脂質異常症の治療目標は「血管」の管理

脂質異常症の治療目標は、血中脂質を下げることでそのものではなく、心臓や血管の動脈硬化、それらの結果としての心臓病や脳卒中、腎臓病（CKD）を防ぐことです。



② タバコ煙には 5300 種類の化学物質が含まれており、70 種類の発がん性物質が含まれます

ご存知ですか、タバコの成分

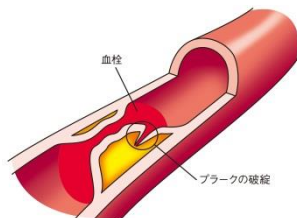
タバコ煙の成分	身のまわりの例
✓アンモニア	悪臭、刺激臭
✓ホルムアルデヒド	シックハウス、塗料
✓トルエン	シンナーの主成分
✓フェノール	殺虫剤の主成分
✓ベンゼン	ガソリンの成分
✓シアン化水素	殺そ剤(ねずみ駆除剤)
✓カドミウム	有毒金属、イタイタイ病
✓一酸化炭素	車の排気ガス
✓ダイオキシン	ごみ焼却からでる猛毒



タバコの煙には5300種類の化学物質
その中には70種類の発がん性物質

③ 喫煙は「血管」を傷めます

喫煙をすると、体内に吸収され循環している化学物質が、血管に「炎症」をおこします。交感神経は緊張し、血管の収縮も起こります。軽度の一酸化炭素中毒となるため、慢性的な酸素欠乏が生じ、その代償のため体は血液を多く生産します。血液が固まりやすい状態（血栓形成）にもなります。複合的な悪影響の結果、動脈内腔が狭くなり、内部に目づまりが起こり、血液の粘調度、血栓形成性が増していきます。



④ 脂質異常症 プラス 喫煙のリスク

脂質異常症の方が喫煙をすることは大変危険です。動脈硬化の進展を促進し、心臓血管死、脳卒中、腎臓疾患のリスクがさらに確実に高まります。（写真：脳梗塞肉眼像）



⑤ 禁煙すれば危険性は下がります

禁煙をされると、心臓血管死や脳卒中中の危険性は低下を始めます。4～5年で喫煙をされない方と同等の危険性になるという研究もあります。

⑥ 喫煙は他の悪影響も・・・

喫煙は、様々ながん、COPD、肺炎、メタボリック症候群、歯周病などの原因となり、糖尿病や高血圧症、ぜんそくの病態を悪化させます。喫煙は「健康への最大の危険因子」であり、禁煙のメリットは計り知れません。

⑦ 受動喫煙が起こります

喫煙により、周囲の方へは受動喫煙が起こります。受動喫煙のために、血圧の上昇、心臓病、脳卒中、がんが起こることが判明しています。

⑧ 正しい（自力での）「禁煙法」です

- 減らす・軽くする・加熱式タバコへ変更はNG
- 期日を決めて一気に禁煙を開始する
- 一定の禁断症状は覚悟する（3～7日がヤマ）
- 喫煙と結びつく生活パターンを変える
 - 食後はすぐに席を立てて歯みがき
 - コーヒーや飲酒を控える
- 吸いやすい「環境」を作らない
 - タバコ・ライター・灰皿は捨てる
 - 喫煙者や喫煙場所に近づかない
 - タバコを買っていた場所に行かない
 - 3原則は「捨てる・買わない・もらわない」
- 吸いたくなったら「代替りの行動」
 - 深呼吸・水や茶を飲む・体操・歯みがき、etc
- 再発は「1本だけ」から。代替りの行動で対処していけば、徐々に思い出さなくなります
- うまくいかないときは、禁煙外来へ！

禁煙外来 検索

- 楽で・禁断症状が確実に少ない
- 確実・3ヵ月(5回)通院すれば7～8割成功
- 安い・3ヵ月の保険診療で2万円弱



製作：くまもと禁煙推進フォーラム

参照：日本肺癌学会および日本内科学会／喫煙問題に関するスライド集